

福井県と似ている 徳島県なのに、福井県より 2倍も多いもの？



福井県	比較対象	徳島県
289万8千円 全国14位	1人あたりの県民所得	284万5千円 全国18位
17.97% 全国8位	従業員数1~4人の事業所に勤める従業員の割合	18.72% 全国5位
845万4千円 全国8位	預貯金残高 (人口1人当たり)	864万6千円 全国7位

『統計でみる都道府県のすがた2007』(総務省統計局編集)より

7.05% 全国46位	女性の管理職の割合	15.71% 全国1位
----------------	-----------	----------------

『管理的職業従事者に占める女性の割合』(総務省「平成14年度就業構造基本調査」)より

唐突ですが、同じ人口80万人余りの福井県と徳島県は、似通ったところが意外とあつたりします。面積もほぼ同じ、1人あたりの県民所得も福井が289万8千円で全国14位、徳島は284万5千円で18位。従業員数1~4人の事業所に勤める従業員の割合も福井が17.97%で全国8位、徳島県は18.72%で5位。そして預貯金残高も福井が845万4千円、徳島県は864万6千円、全国7位。

4千円で8位、徳島県は864万6千円で7位。つまり、福井県と徳島県は、人口や面積はほぼ同じ、小さな会社に勤めている人が多く貯金残高は高い。すなわち堅実である。雪国と南国の違いはあるけれど、県の規模や経済力もほぼ同じぐらい、と思っていれば、大きく異なるデータがありました。

7.05%で全国46位。実はこのデータは、女性の管理職の割合なのです。管理職全体に占める女性の割合が、福井県は徳島県の半分以下。平たく言えば、福井県の女性は会社の中で責任ある地位に就いている割合が、全国で2番目に低く、徳島県の半分以下でしかないのです。

女性の活躍について考える 福井の女性は、 徳島の女性より劣っている？

福井の女性は、徳島の女性より、企業において責任ある立場に就いていない。企業でなく社会で見ても、例えば福井県には女性の県会議員は定数40のうち1人もいません(徳島県は定数41に対し2人の女性議員がいます)。それは福井の女性が徳島の女性より劣っているということでしょうか？決して、そうではないでしょう。がんばっている人がいないわけではないのに、管理職になる女性が少ないとしたら、それは正当な評価を受けていないということ。また、責任ある仕事を前にして

女性が尻込みする意識があるのかも知れません。福井は共働きが多い県ですから、家庭生活との両立が難しいのかもしれない。一つ確かなのは、女性も、そして企業などの周りもともに意識を変えていかないと、女性が責任ある立場に就くことは、なかなか難しいだろうということです。女性が能力を生かして活躍する、活躍できる社会。そんな社会の実現を考えるために、活躍する女性と、活用する企業の2方向から追ってみました。

ヤマト運輸株式会社
福井主管支店 西北メール便エリアSV
廣田 悦子さん (坂井・奥越兼務)



周囲の支えが後押し 女性初のセンター長に

宅急便などの小口貨物サービス事業を行うヤマト運輸で、北信越エリアでは初の女性管理職、西北メール便エリアSV(スーパーバイザー)を務める廣田悦子さん。9月末までは、福井高柳宅急便センターでセンター長を務めていました。ヤマト運輸に席を置く前は、輸送会社でパート社員として事務の仕事をしていました。結婚・出産で、仕事を休んでいる間に勤めていた会社がヤマト運輸へ移籍。当時の職場の上司の勧めもあって、面接を受け、ドライバーとしてヤマト運輸へ。何事も負けたくないという気持ちで強く、物品のセールズでは月100万円を売り上げ、福井主管支店で1位に。一時給で働くパート社員でも、トップになれるー結果を出した、という達成感でいっぱいでした」と廣田さん。

ヤマト運輸に移籍してから3年後、正社員登用試験を受け、正社員に。一時期、出産・育児のため職を離れましたが、その翌年にはドライバーとして復帰。ほどなくしてセンター長へ、との話があったものの、お子さんが小さかったこともあり、悩んだ末、辞退されたそうです。その後再び推薦を受け、上司の勧めや家族の支えに後押しされて、昨年5月からセンター長の職に就かれました。10月より現職。

女だからダメだと言われるのは嫌。でも、できないことは「助けて」が大事。

「役が自分を育ててくれる」

「このセンターを任せられる、リーダーとなることに対して、「うれしい気持ちもありましたが、不安も大きかった。福井主管支店では、女性のセンター長というのは前例がありません。でも、前例がないのであれば自分がその前例になって、これから上がってくる人たちに『私はこうしてきた』と言えるようになりたいと思います。当然、役割上、結果は求められます。でもそれは、現場のモチベーションを上げていけば、ついてくること」と話されます。

「現場のドライバーがセンターに戻ってきたら、『おかえり、大丈夫やった?』など、ひと言多く声をかけるようになっていました。宅配中のドライバーには、雨が降っていたら、気をつけて運転してください、などのメールを送ることも。そういった、女性だからできること、気づくことを仕事に活かして、職場の士気を盛り上げるようにしていました。相撲部屋の女将さんのような感じですね(廣田さん)。女性だからできる役割を考え、行動に移していたことが、部下の信頼にもつながっているようです。

「人を動かすことは本当に難しいと感じています。でも、自分がまず率先してやることで、相手に思いは伝わっていくもの。必要とされること、認められることが自信につながっています。勇気を出してやってみる、そうすれば、役が自分を育ててくれると思っています(廣田さん)。

「女性が、男性と同じ荷物が運べるかという、体力的に無理なこともありますが。そんなときは、誰かに頼ればいいんです」。自分ができないことは相談する。お互いに活かし合いながら、協力しあっていけばいいと考えているそうです。「廣田さんがリーダーでよかった」と言われることが、心からうれしいですね。また、同じ職場で働く若いスタッフたちが育ったときが、最高にうれしい瞬間です」それは廣田さんにとって、つらいことも忘れさせてしまうほどのやりがいになっているようです。



女性側

Company Interview

部署単位でフレックスを運用

プレス機械や各種産業機械・システムなどの製造、販売を行うエイチアンドエフ。女性社員の数は35名と、全体数の1割弱ですが、結婚・出産後もほとんどの女性が仕事を続け、長く働いています。

「弊社では十数年前から、フレックスタイム制を導入しています。個人の生活はそれぞれスタイルが違います。例えば、朝・子どもの登校を街頭に立って見守る当番が回ってきた、おじいちゃんおばあちゃんを病院に連れて行くなど、人によって環境や事情が違い、時間の使い方はさまざまです」と、総務部の長友正人さん。フレックスタイム制では、各人がライフスタイルに合わせて業務時間を調整できるため、部署ごとにあらかじめ計画を立てて

業務に支障が出ないようにしているのだそうです。

3年ほど前から、女性管理職の登用を進めていこうと動き出したところ。「規定に沿って論文を提出して試験

を受け、それが通れば役職に就いてもらうというもので、3年前には女性の係長が誕生し、今年も2人の女性が論文審査を見事通過しています。女性に

しかな感性で、デザインや広報、企画、また人材を採用する側にも携わってほしい」と思っています。そのため環境を整えていきたいと考えています」（長友さん）。最近では、会社説明会などで、先輩

の女性が代表として説明することもあるとのこと。プレス機械の製造・販売という業種柄、重くて堅そうなイメージを持たれがち。しかし、女性が説明会で話することで柔らかい印象を与えてくれます。これも、女性の持ち味を活かしたひとつでしょう。

男女を同じ基準で評価 企業・社員、両者のプラスに

「結婚後、仕事を辞めるという女性はほとんどいません。出産・育児休業後も、ほぼ全員が復帰しています。もちろん、前職への復帰は大前提。2人3人と子どもを産む人が多いのは、安心して戻って来られる（復帰できる）企業風土があるからかもしれません。今まで積み上げてきた知識や経験があるので、辞めることは本人にとっても、会社にとっても、もっ



たいないこと。長く働いてもらうためにも、働きやすい環境を整えていくことは大切と長友さん。出産・育児休業など、長期休暇の間は職場の同僚が仕事を分担したり、派遣

女性の感性を 活用しないのは 会社にとっても大きな損失

質や効率化はもちろん、女性の感性やアイデアが活かされたきめ細やかな配り改善が生産部門を支援して、会社全体の活性化につながっています。小さなことでもコツコツと積み重ねていくことで、企業側にとっては利益へとつながり、会社全体で職場をより良くしていくという意識・意欲も高まっているようです。



社員の方に入ってもらうなどして対応しています。

エイチアンドエフでは、社員のやる気やチャレンジを起すため、10年前からTPM（トータル・プロダクティブ・マネジメント）を始め、KAIZEN活動を行っています。その名のとおり、業務上の改善をしていくというもの。社員同士で改善のアイデアや意見を出し合い、それらが評価されればポイントが付き、1ヶ月の獲得ポイント数の合計に合わせて賞金が出されるシステム。コスト、品

女性が働きやすい環境があるから、女性が活躍でき、女性を活用できる。女性が活躍すること、また女性を活用することは、本人にとっても、企業にとっても利益につながっている。その好循環は企業、社会を活性化させます。そのために必要なのは小さなプラス面の積み重ね。管理職という責任ある立場に就いて、自分がどのような役割を果たせばいいのか、またそうするためにはどうすればいいのか。しっかりと考え、実行に移すことで、周りの信頼を得ていく。やり方は人それぞれであれ、その舞台に立つ勇氣と挑戦する気持ちが大切なようです。

株式会社エイチアンドエフ
総務部副部長 総務・人事課長
長友 正人さん

お問い合わせ 福井県男女参画・県民活動課
TEL0776-20-0319

ふくい女性活躍支援センターは、活躍するあなたのメンターです。

ふくい女性活躍支援センターは、社会で活躍する女性のキャリアアップを支援するためのセンターです。
キャリア相談や講座の開催、ネットワークづくりなどを通し、自ら、考え、学び、行動する女性を応援しています。

○女性キャリア相談

一般相談

- 火曜日～木曜日・土曜日 10:00～17:00
- 金曜日 13:00～20:00

女性キャリア相談員が、何かを始めたい、変えてみたい、キャリアアップしたいと考える女性の相談に応じます。話をじっくりお伺いし、相談者が明確なライフプランを描けるようお手伝いします。

具体的なライフプランを持つ方には、ステップアップのための情報も提供します。



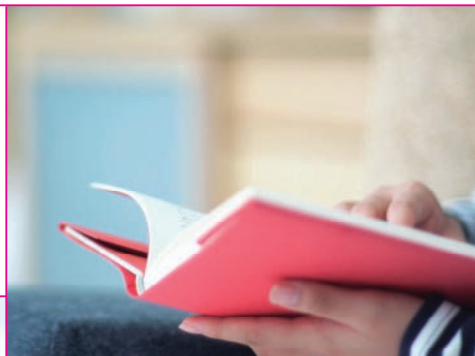
- 所在地：〒918-8135 福井市下六条町14-1
ユー・アイふくい(県生活学習館)2階
- 電話：0776-41-4244(相談専用)
0776-41-4200(館代表)
- FAX：0776-41-4201
- e-mail：seikatug@pref.fukui.lg.jp
- URL：http://www.manabi.pref.fukui.jp/you-i/
- 開所時間：9時～20時
- 休館日：・毎週月曜日(国民の祝日・祝日の翌日の場合は開館)
・第3日曜日(国民の祝日・祝日の翌日の場合でも開館)
・国民の祝日の翌日(土・日曜日の場合は開館)
・年末年始(12月28日～1月4日)

相談専用電話 **0776-41-4244**

面接相談は電話でご予約ください。(相談時間1回1時間程度)
※相談日、時間は変更場合があります。

○キャリアアカデミー ＜研修事業＞

働く女性を対象としたキャリアアップのための講座です。主に中堅以上の方を対象に、マネジメント能力向上研修などの実務研修や、国内外で活躍する女性を招いて講演会を開催します。リーダーとなるための資質磨きを応援します。



○働く女性のネットワーク会議

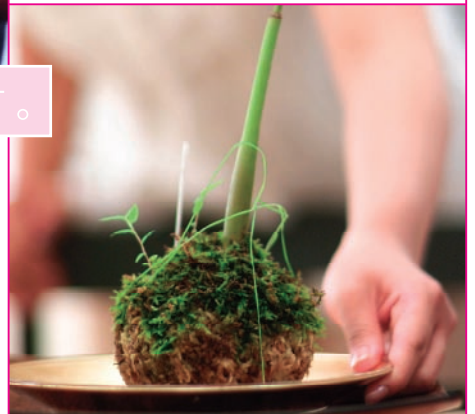
県内で働く女性が集まり、自由な意見交換や情報収集のできるネットワーク会議を組織します。自分たちが聴きたい講演会の企画や情報発信活動を、センターがバックアップ。活動を通して、キャリアアップする女性のお手伝いをします。



“自分磨き”を応援します。

○女性のチャレンジ支援コース ＜研修事業＞

キャリアアップに役立つ、実技を中心とした講座です。仕事を離れた女性の再就職に役立つ実技講座、家庭と仕事の両立のノウハウセミナー、キャリアアップに役立つコミュニケーション術やパソコンなどの研修を提供します。



LADY GO 会員募集中!

講座や講演会、イベント、交流会など、ふくい女性活躍支援センターの行事をお知らせする登録会員を募集しています。登録された方には、センターから案内を送付させていただきます。

登録は
無料です

- お申し込み連絡先
電話：0776-41-4200 FAX:0776-41-4201
- 登録事項
住所、氏名、連絡先、電話番号、メールアドレス

※登録住所は勤務先でも可
※いただいた情報は、催し物の案内以外には利用いたしません

女性を支援する企業の方へ!

ふくい女性活躍支援センターの事業にご協力いただける企業を募集しています。講座への講師派遣、研修会へのご協力など、働く女性を応援する御社のお力をお貸しください。また、企業からのご意見、活動へのご要望などもお寄せください。センター事業に反映させ活動に役立てさせていただきます。

ふくい女性活躍支援センターでは、多くの方にセンターへ足をお運びいただき、知っていただくために、各企業・団体のご協力をいただき、月1回程度気軽に参加できる気楽な講座を開催しています。次回11月23日(金・祝日)開催予定!

参加者募集!!

日本まんなか共和国男女共同参画フォーラム～2007岐阜～みんなで“ひらく”女と男の今・未来

福井・岐阜・三重・滋賀の4県が、男女共同参画社会の実現に向け連携を図ることを目的に開催します。

開催日:11月17日(土)9:30～16:15 会場:ソフトピアジャパンセンタービル(岐阜県大垣市) 福井から大垣までバスを運行します。(無料・先着順)
申込締切:10月31日(水) 申込先:福井県男女参画・県民活動課 詳しくはホームページをご覧ください。http://info.pref.fukui.jp/danken/



福井県男女参画・県民活動課 〒910-8580 福井市大手3-17-1
TEL 0776-20-0319 FAX 0776-20-0632 E-Mail danjoken@pref.fukui.lg.jp